

## ビジネスで培ったノウハウを活かして

青山学院大学の監督に就任後、2015年に箱根駅伝で初優勝。2017年には箱根駅伝を3連覇し、大学駅伝3冠も達成しました。これは就任当初、この部の10年後のあるべき姿やチームビジョンを「10年計画」として明確化させていたこと、そしてそれに向けて半歩先のできることを確実に実践していったこと、その積み重ねが要因だったと思います。

## 選手との接し方への工夫

かつてスポーツが「体育」だった時代と違い、今は指導者があるをしる、これをしるという一方的に指導するのではなく、選手を支え、サポートするような立場に変わってきていると考えています。

よね。目標を立て、プランニングし、チェックをしながら進め、そしてまた結果からフィードバックする。企業は営利が目的ですが、大学スポーツでは学生をどう学ばせるか、という視点が異なるだけで、このPDCAサイクルは同じ。会社員生活で培ったそのノウハウを、教育の分野に置き換えているだけなんです。

# スポーツの価値、 スポーツ選手の社会的地位を 高めたい



青山学院大学 陸上競技部  
長距離ブロック監督

# 原晋さん



写真提供：(株)フォート・キシモト



ます。私の考えを一方的に押し付けるのではなく、選手の能力をどう引き出してあげるか、という視点で選手には接しています。察母として一緒に生活してくれている妻の存在も大きいですね。うちは大きな家族みたいなものなので、親父である私には言えない

ことも、妻には相談できたりする。母親に甘えるのが男ですからね笑。相談することでガス抜きになるし、大事なことは私にフィードバックされてきますので、良い循環が起きていると思います。

選手の食事については、出された物を確実に食べることが大原則です。食事を抜くようなことはさせずに、3食しっかり摂らせる。あとは食べ方です。食事も「コミュニケーションの環なので、チームワーク作りのツールになります。昔の体育の世界にありがちな、黙って黙々と…ではなく、皆で楽しく会話をしながら食べることを大事にしています。

## 日本のスポーツのあり方を研究したい

スポーツの魅力が無限大ですよ。大学駅伝であれば大学に一体感を、オリンピックともなれば日本中に一体感を生み出します。そんなスポーツ文化の価値をより高めたいし、選手や監督の引退後の存在価値みたいなものも高めたいと思っています。競技の指導者として勝った負けたの部分だけを伝えるのではなく、選手が引退した後、社会で貢献できる人材にどう育てていくか。引退後の選手のキャリアや、スポーツ選手の社会的地位を高めるメカニズムを研究したい。そのために、この春から早稲田大学の大学院でスポーツビジネスについて学ばせてもらっています。箱根駅伝の4連覇5連覇と、それはもちろん重要な目標なんです。もっと大きな視点で、日本の教育やスポーツのあり方を研究する。それが今、私がやりたいことです。

### Profile ●はら・すずむ

1967年、広島県三原市出身。中学から陸上部に所属、世羅高校3年時に主将として全国高校駅伝で準優勝。中京大学を卒業後、中国電力に入社し陸上競技部の創設に参加する。現役を引退後はビジネスマンとしても活躍。2004年に青山学院大学陸上競技部監督に就任。2009年、同校を33年ぶりの箱根駅伝出場に導く。2015年、箱根駅伝で初の総合優勝。2017年には箱根駅伝3連覇と学生三大駅伝三冠を達成した。

photograph：遠藤直次